「第65回国民体育大会を振り返って」

総監督　清水　新二

「ゆめ半島千葉国体2010」は「今　房総の風となり　この一瞬に輝きを」のスローガンのもと10月2日から3日間館山運動公園体育館で開催された。本県からは成年男子、九州ブロック予選で優勝し4年ぶりの出場を果たした成年女子と少年女子が出場した。

第1日目に少年女子及び成年女子の試合が行われた。少年女子は岡山県に3対2で勝利し、続く神奈川県とは一進一退で大将戦となり、渡邊選手が引き小手、抜き胴の技が有効と思われたが有効とならず、延長戦の末敗れる波乱となり惜敗した。成年女子は初戦兵庫の勢いに押され0対2で惜敗した。第3日目、成年男子は初戦石川県に盤石の試合運びで勝利(3対2)したものの1対4で惜敗した。次は地元千葉県と対戦、地の利を生かしてこれまで3部門を制し、波の乗る相手に善戦はしたものの1対4で惜敗した。

今回の戦いを終えて感じたことは、成年男子以外は厳しいブロック予選があるということである。代表枠の改正や近頃の予選レベルの向上により、3部門代表は厳しい状況にある。従って、来年の山口国体に向けて、選手の個々の稽古への取り組みはもちろんであるが、早期に選手候補の強化訓練等、強化体制の確立が望まれることを痛感した。

様々な難しさはあったが、県剣連の「女子の強化事業」や「成年男子との合同稽古」など様々な場面で沢山の先生方のご支援をいただいたことが今回の結果に繋がったと心から感謝している。

また、選手強化の為に沢山の女性剣士が防具を抱え一緒に汗を流してくれたことも大きな支えとなった。

次年度もこの「熊本の剣道の和」を基盤に更なる上を目指してみんなで頑張って行きたいと願っている。

多くのご支援を受けて

成年女子監督　三嶋久美

今年度、4年間のブランクを経て国民体育大会への出場が叶った。

選手には、先鋒にふるさと選手の活用で西嶋遥香選手(国士舘大3年)、中堅は村下美保選手(阿蘇)、大将に平山理恵選手(菊池)とそれぞれ離れていて三人が一緒に稽古するのが難しい環境の中でのチーム編成であった。しかし「今年こそ本大会へ」を目標に、選手が気持ちを一つに頑張ってくれたお陰で、ブロックを一位で通過し本戦出場を果たすことができた。

本大会では接戦の末、初戦敗退となったが、それまでの試合はどれも白熱した接戦で素晴らしい内容であった。

成年女子は、年齢差や仕事、学業との両立等様々な難しさはあったが、県剣連の「女子の強化事業」や「成年男子との合同稽古」など様々な場面で沢山の先生方のご支援をいただいたことが今回の結果に繋がったと心から感謝している。

また、選手強化の為に沢山の女性剣士が防具を抱え一緒に汗を流してくれたことも大きな支えとなった。

次年度もこの「熊本の剣道の和」を基盤に更なる上を目指してみんなで頑張って行きたいと願っている。

高いモチベーションで

少年女子監督　鳴瀬幸裕

本大会に向けて8月の初旬から頑張って参りました。本年度は、阿蘇高4名、菊池女子高2名、鹿本高1名の選手構成で臨み、インターハイから九州ブロックまでの期間が短い中、選手は高いモチベーションを保ち遠征・合宿を行ってきました。

その結果、九州ブロック大会では6勝1敗で優勝することができました。その後、本大会に向けて遠征・合宿を重ね「攻めの強さ」を重視して千葉国体に臨みました。

結果は準々決勝で神奈川県に惜敗、5位という結果に終わりました。

しかし、選手は剣道王国熊本の名に恥じない素晴らしい試合を展開してくれました。大会を振り返って改めて国体で勝つことの難しさを痛感するとともに、今後の課題も数多く持ち帰ることができました。

大会参加にあたり選手の健闘を讃えるとともに、県剣道連盟はじめ高体連剣道専門部、関係各位のご協力・ご支援に深く感謝申し上げます。

【少年女子の指導陣と選手】

九州学院中が4度目の全国制覇！

＝全国中学校体育大会＝

標記大会は昨年8月24日、鳥取県浜山公園体育館で行われ団体の部で九州学院中が宮崎県三股中を接戦の末撃破、見事8年ぶり4度目の優勝を手にした。なお、女子の西合志南中は決勝トーナメント2回戦で代表戦の末、惜敗しベスト8となった。

周りの応援に感謝

九州学院中　真田裕行

私達は今回、団体の部で優勝する事ができました。優勝が決まった瞬間、勝った喜びよりも、先に心から感謝したいと思うことがありました。先ず、支えてくれた仲間や親への感謝です。これまで、勝っても負けても励ましてくれ一生懸命応援してくれました。これが優勝することができた一番の原動力だと思います。それに、熊本県内は、どこのチームが出場してもおかしくないライバル校がたくさんいて、戦う仲間がいるお陰で、私たちも強くなれたのだと思いました。

最後に指導してくださった先生方への感謝です。私たちが今からできる事は、勝つだけでなく剣道を通じて色々学んだことを後輩や仲間に伝える事で、恩返しをしたいです。来年も後輩に優勝して欲しいですが、この熊本県からまた優勝するチームが出たら嬉しいです。

盛り上がる剣道王国熊本

＝第65回県民体育祭＝

審判長　田邉　秀昭

本年の県体は、これまでも選手確保に苦労していた状況の中、今回は市町村合併も重なり、一段とチーム編成が厳しくなった自治体もあったようである。

又、選手登録・変更の件で昨年同様本年も問題を残したようである。この件に関しては選手確保の点から、一人でも多くの人に出場の場を与えることが、本県のレベルアップにも繋がる事であるので良い方向に検討していただきたい。

そのような状況の中、全国レベルの選手を加えたチームもあり、それらの選手が気を抜くことなく真剣に試合する事により、他の選手も自然と気合いがはいり、白熱したレベルの高い試合が繰り広げられ全試合内容の濃い大会となった。

第一試合場は2連覇を狙う熊本市が、第二試合場は菊池郡市がそれぞれ決勝へと駒を進めた。

決勝戦は、これまでの両チームの試合内容から競り合いながら熊本市が優勢と予想していたが、予想に反して菊池郡市が前3人で勝負を決め終わってみれば3対1の大差で優勝を飾った。

県内には力を持った素晴らしい選手が数多くおり、層の厚さを改めて感じさせられた大会でした。

最後に、剣道王国熊本を支える人材を育成することに県剣連を初め我々も力を尽さねばと痛感させられた。

来年の大会では「ふるさと制度」等を活用し県内のトップレベルの選手が集まって、名勝負が展開されることを祈念して観戦記とします。

【優勝の菊池郡市チーム】

【感無量23年ぶりの優勝】

監督　坂本忠弘

23年ぶりに優勝を果たすことができたことの喜びを、選手はもとより、菊池郡市剣道連盟の皆様方と分かち合うことができ、心から感謝いたしております。

決勝戦は、昨年度優勝の熊本市との対戦となり、選手は一丸となって試合に臨み、先鋒、次鋒、中堅の前3人で勝負が決まり3勝1敗で優勝を手にしました。

大将の平田選手は、左足薬指の負傷を押しての出場となりましたが、最後まで気迫溢れる試合運びでみんなを引っ張ってくれました。選手の気持ちが一体となってつかんだ優勝でした。

“勝者数の差で予選惜敗”

＝ねんりんピック石川大会＝

監督　野口　愼一郎

本大会は10月9～11日、石川県羽咋(はくい)市で開催されました。

大会では、全員総合開会式に出席しなければならないので、8日の早朝に熊本空港に集合し、出発しました。伊丹からはバスで隣県の富山県砺波市まで7時間半の移動でした。9日も早朝からの移動で、1時間かかって会場に到着しました。

それから雨の中2時間以上待たされ、開会式後もスタンドで雨に濡れながら昼食、アトラクション鑑賞と、2日間かなりつらいものがあり、選手の体調管理も気になる所でした。

こうなると楽しみは宿ですが、これがまた羽咋市の会場からバスで一時間の和倉温泉だったのですが、言うに言われぬ旅館でした。詳しく知りたい方は選手各位にお聞きください。

10日の予選リーグは、最初福島と対戦。この日、前陣が若干不調で、少々苦戦を強いられましたが、中堅宮村先生の鮮やかな勝利で勢いづき、本村先生、松尾先生と連勝し逆転勝利しました。

次は堺市との対戦で、大差で勝利したいところでしたが、結果として2対1で勝ちましたが同じブロックの北海道も2勝し、勝者数で1人少なく残念ながら予選リーグ突破はなりませんでした。

北海道は3位に入賞しました。また、地元石川は3チーム出場し優勝・2・3位と独占しました。

来年は菊池で開催されます。地元開催で枠が広いので、ぜひ多くの皆様に選考会に参加いただき、熊本の高齢者の剣道の底力を示していただきたいと思います。

『盛大に熊本県武道祭・武道振興大会開催！』

熊本武道館事務局長　北園　雄一

22年11月13日(土曜)熊本武道館にて盛大に開催された。当日は、天候にも恵まれ昨年度より多数の演武者・観覧者の方々に参加・観覧頂き日本の伝統文化である武道の心と技を堪能していただいた。

午前9時開会式。武道振興会川崎順一郎副理事長・来賓の挨拶を戴き、武道9団体による奉納演武が披露され、緊迫感に包まれた中一つ一つ気迫のこもった各演武に会場から大きな拍手が巻き起こった。

県剣道連盟からは、居合道、杖道それに来年度「ねんりんピック熊本大会」のアトラクションに予定されている「木刀による剣道基本技稽古法」演武が溌剌とした龍驤館の子どもたちにより披露され武道祭の幕を閉じた。

本年度は武道祭後、県武道振興大会が各武道団体より約100名の方々のご臨席を得て熊本テルサにて開催された。

県武道協議会川崎順一郎会長の挨拶、県武道スポーツ振興議員連盟村上寅美相談役、県武道協議会顧問・県少林寺拳法連盟米満弘之会長からご祝辞を戴いた。

最後に各武道団体を代表し県剣連冨田陽一常任理事から「武道団体の結束、青少年の健全育成、武道精神の涵養、たゆまぬ自己研鑽と競技力の向上を目指す」等の決意表明が行われた。

その後の情報交換会では、参加者が入り交じり、時がたつのも忘れ互いに打ち解け合い親睦を深め盛会のうちに終了した。

武道祭、武道振興大会開催に際しまして関係各位には多大なるご支援、ご協力を賜り衷心よりお礼申し上げます。　なお、今後とも本県武道振興のためご尽力賜りますようお願い申し上げます。

【龍驤館の子供たちによる演武】

ねんりんピック2011熊本リハーサル大会開催！

＝山鹿市・植木町剣連Aが初優勝＝

菊池市実行委員会　安武　邦男

第4回菊池の郷シニア剣道交流大会兼第24回全国健康福祉祭くまもと大会ねんりんピック2011熊本リハーサル大会は、昨年10月31日(日)菊池市総合体育館において、九州各県から32チームが参加し開催された。

当大会は生涯剣道の一貫として、シニア剣道愛好者が一同に会して日頃の剣道修練の成果を披露し、健康の維持・増進と参加者相互の親睦を図ることを目的に開催されていますが、本年度は、来年のリハーサルを兼ねて行われた。

開会式では、前年度優勝チームの江藤秀恒選手(崇城あすなろう会)の堂々とした選手宣言後、右田幸次郎・栗崎敬一両教士による日本剣道形演武。更に菊池女子高校郷土芸能部による「菊池千本槍」などのアトラクションで、大会に華を添えていただいた。

試合は4チームのリンク戦の後、各パート1位8チームにより決勝トーナメント戦が行われた。各試合とも、60歳以上とは思えない見応えのある激戦が展開された。決勝戦は山鹿市・植木町剣連Aが宮崎県児湯1組を制し初優勝を飾り盛会のうちに終了した。来年度の本大会での本県チームの健闘が期待される。

成績は左記の通り

優勝：山鹿市・植木町剣連A、2位：宮崎児湯1組、3位：菊池城山会・国際社会人剣道九州クラブC

8月中旬から暑い中、週2回の練習をこなしてきた選手の皆さんには心から敬意を表します。また、ご指導いただきました菊池郡市剣道連盟の先生方大変お世話になりました。

最後になりましたが、大会の運営に当たっていただいた荒尾市の役員の皆様、また剣道連盟の皆様へ心から感謝申し上げます。

【初優勝：山鹿市・植木町チーム】

武道具専門店
職人の技と心の生きる手づくりの店
源武重
光重作 鎧甲手
銘竹刀 火の国
熊本市大江本町1番32号 九州学院前電車通り
TEL (096)372-3666(代) FAX (096)372-3671
ホームページ http://www.genbudo.com/
メールアドレス kumamoto@genbudo.com
交通局 九州学院 竹下医院 中央信金 アイリー 味噌天神電停 交通局電停 鎮西高校通り P6台 P3台 鎮西高校 源武重
天草営業所 TEL(0969) 23-5988 FAX(0969) 23-6524
人吉営業所 TEL・FAX(0966) 24-8417